

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v.2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ダイレックス小倉下曽根店	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	4.0 / 5		よい
3 豊かな自然環境の確保	1.3 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	1.0 / 5		がんばろう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 3
構造体、壁面共 鋼材を使用。		照明はLEDをメインで使用。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 4.0	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 5	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 3
壁、天井へ断熱材使用。		節水型便器の使用。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1 スコア 2
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	主な指標	
バリアフリーで安全なフロアとした。簡易オストメイト付多目的トイレ設置。		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 0.88 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.61 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイレックス小倉下曾根店	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、防火地域:指定なし	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2018年2月1日
敷地面積	6,198 m ²	作成者	蒲生
建築面積	2,675 m ²	確認日	
延床面積	2,675 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 14%
 ③上記+②以外の 14%
 ④上記+ 14%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	建物を道路から離れた計画とし、圧迫感の無いよう考慮。敷地出口を2か所とする事で、渋滞の軽減をはかった。	その他 特になし。
Q1 室内環境	天井高さを3.95mと高く取り、かつ陳列棚の通路幅も1.5mとすることで、ゆとりのある空間とした。	Q3 室外環境(敷地内) 車路は平均6.5m以上とし利用しやすくし、風除室付近にバリアフリー専用駐車スペースを2台確保。
LR1 エネルギー	外壁全体に断熱材を入れ、売場内はエアークリーンファンにて効率よく空気を循環させるようにした。	LR3 敷地外環境 室外機置場を屋内に設け、騒音対策を行う。
Q2 サービス性能	バリアフリーで安全なフロアとした。簡易オストメイト付多目的トイレ設置。	
LR2 資源・マテリアル	節水タイプの大便秘器を使用、水資源保護とした。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)ダイレックス小倉下曽根店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境			0.40					3.0
1 音環境		3.2	0.15					3.2
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音	外壁、天井に断熱材設置(図面:KA-23・24)	4.0	0.20					
2 温熱環境		3.1	0.35					3.1
2.1 室温制御		3.6	0.50					
1 室温		3.0	0.50					
2 外皮性能		3.0	0.17					
3 ゾーン別制御性	各部屋毎に空調設置(空調設備図)	5.0	0.33					
2.2 湿度制御		2.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50					
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	1.00					
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御		3.0	0.50					
4 空気質環境		3.0	0.25					3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50					
1 化学汚染物質		3.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.50					
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					2.6
1 機能性		2.2	0.40					2.2
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40					
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画		1.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30					
1 広さ感・景観	売場天井高さH=3950(図面:KA-18)	5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30					2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3	電気設備	キュービクル、予備発電機設置(図面:KA-10、E-05)	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.0	0.30		-	3.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30		-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	1.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30		-	1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建築物法入力支援ツール BPI=0.88	4.2	0.20		-	4.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.61 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		モデル建築物法入力支援ツール BEI=0.61	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)				-		-	
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		鉄骨造(鋼材)、内装ボード(図面:KA-23・24)	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		仕上F4使用(図面:KA-07)	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-		-	
3	冷媒		3.0	1.00		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.5
1 地球温暖化への配慮		CO2計算	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮			2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場、身障者用駐車スペース(図面:KA-10)	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	生ゴミ庫、段ボール庫(図面:KA-15)	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	